多文化の共生、敵との和解、不戦共同体と地域の共同

国際日本学部　国際文化交流学科　羽場久美子

1．私のミッション（使命）

私の父は、少年の頃、広島で原爆を受けて被爆し、奇跡的に生き残ったので、将来子供は設けることができないだろう、と米兵に言われたそうです。にもかかわらず私はこの世に生を受けることができ、健康に生きることができているので、両親には心より感謝しており、小さい時から「戦争と平和」に関心を持っていました。

それで大学入試の時に、ヘーゲル哲学か国際関係を学びたいと思い、最終的に国際関係・国際政治を選択しました。選択は良かったと思っています。

その後、EU（ヨーロッパの統合）、民族や移民・難民・マイノリティなどを研究するようになって、一番関心を持ったことは、弱者やマイノリティの側から世界を見ると、世界が一般に言われていることと違って見えること、対立する人同士の和解、多文化の共生が、世界の平和と幸せ、繁栄を作り出すこと、でした。「小国」から世界を見る、という恩師百瀬宏先生の影響も受け、国際政治も、大国からではなく小国から、強者からではなく弱者から物事を見ると、本質が見えてくるように思います。

私の研究テーマは今世界で重視されているＳＤＧｓ「誰も取り残さない」にとても近いと思います。

ヨーロッパは、ほぼ２０００年にわたって戦争を続けてきました。が、第２次世界大戦後、欧州が完全に荒廃した後、その廃墟の中から立ち上がって実現したのが、「敵との和解」としての「ドイツとフランスの和解」、戦争の原因が資源とエネルギーの奪い合いであった、ということからくる「石炭鉄鋼共同体」の設立、いわゆる「不戦共同体」でした。「戦争相手と和解する」、といういわば究極の和解・赦しが、欧州での戦争を中止させたということに、深く感銘を受けました。「レミゼラブル」を書いたヴィクトール・ユゴーが、既に19世紀に、「剣をペンに、銃を投票箱に」と望んだ、対話、文筆、選挙が、最終的に欧州の平和を呼び寄せていくこととなります。

これは確かに宗教的要素が強く絡んでいますが、当時の宗教の在り方にも真っ向から対立する者でした。当時は戦争時には、カトリックもプロテスタントも、自国の戦争を正義の聖戦として、兵士たちを戦場で祝福し、相手を滅亡させることを祈っていました。しかしそれをも超えて「戦争相手を許し和解する」という究極の誓いであったということ、優れて超宗教的・超法規的な、「和解」であったということが言えると思います。

ただその和解の最大の難点は、欧州地域が結束して平和を築く一方、新たな敵、ソ連の拡大に備える、ということであったために、残念ながら冷戦がはじまっていきます。

2．一番大切なこと

移民・難民・マイノリティ研究を並行してやる中で、一番大切なこと、もう一つの私の信念は、マイノリティを擁護することでした。民主主義体制というのは、マジョリティ（多数者）の支配ですから、マイノリティ研究をやっていると、多数派支配の民主主義に対しても疑問が生じることがあります。マイノリティ（少数者）は、それが少数民族や、少数宗教であったりすれば、いつまでたっても日が当たらないからです。

その意味で現在、ＳＤＧｓ「誰も取り残さない」、ＬＧＢＴＱなどが日本の企業でも渋谷区の自治体などでも承認されていく、というのは、民主主義の成熟度を示していて、素晴らしいことなのではないかと思います。

今でも世界中の国々は、隣国との間で領土や資源をめぐって争い、殺し合いをし、結局は自分たちと周辺の国々を不幸にしています。こうした問題を解決するには、やはり、やられる側、弱者やマイノリティの側から、世界を見ることによって、いかに戦争は、罪もない一般の人たちに犠牲を強い、殺されたり難民や移民として移住を余儀なくされたりして、その人の人生を壊していくのかということも理解可能になると思います。

3．神奈川大学国際日本学部のすばらしさ

神奈川大学国際日本学部、国際文化交流学科の素晴らしいところは、英語のタイトルにもあるように、Cross-Cultural and Japanese Studies多文化が交錯して豊かになり、日本学も多文化との共生の中で、さらに深まり発展していくということを教える学部、学科であるからです。ここには全世界から集まった、イタリア、スイス、アメリカ、ドイツ、フランス、日本、中国、韓国、沖縄、中欧・東欧、ロシア、などなど、あらゆる国々の方々、あらゆる研究者が集まっていて、学生さんたちは、そうした世界の混住、多文化性を、大学に居ながらにして学ぶことができるということです。

コロナが終わったら、是非世界中を旅してみてください。観光もこの学部のメインですね！　様々な文化、生活、習慣に触れて、それらすべてを、できれば若いうちに、学生さんの柔らかな心の中に吸収していってください。

世界中で起こっている紛争の中から、いかに平和を作っていくことができるか、いかにして苦しんでいる人たちをいやすことができるのかを考え続けてみてください。

弱者やマイノリティに視線を合わせて、課題を問い直すこと、トップダウンではなく、ボトムアップ方式で考えること、そして多文化の共生、対立している人々との和解・赦し、地域の共同なのだと思います。

若い皆さんには、まずは好奇心のアンテナを高めて、未知の世界に羽ばたいてみること、先入観なしに、違う民族、違う宗教、違う文化を持った人たちと交流し理解しようと考え続けること。世界に、日本に、大学の中に、まず一人の、１０人の、１００人の友達を作っていくこと、でしょうか。

自分の得意なことを見つけ、それに打ち込み、今コロナ禍で大変ですが、決して自暴自棄にならず、さらに大変な人たちにも思いをいたし、一日一善、一日一発見で、新しいことを吸収していってください。

国際日本学部の学生さんたちが、世界の大海原に出ていって、友達をたくさん作ってその友達を理解していくことが、究極的には、平和で安定した、豊かな世界を作っていくと信じています。

素敵な大学生活を送ってください。

一緒に世界に羽ばたきましょう！